

16 回生 藤川葵さん (佐賀市出身)



女性外科医の挑戦

～これからの医療人のあり方～

故郷を離れて 東京で働く夢を叶える

医師一家で育った影響もあり、医師に「ならねばならない」という環境に反発するかのように、大好きな東京で仕事をしたい！と、どうやったら佐賀を離れることができるかを日々真剣に悩んでいた高校時代でした。医師になる夢はもはや後付けで、どうしても東京で生活がしたいという夢があり、志望大学も東京へシフト。しかし、努力は必ず報われるわけではなく、あっさりその東京 Dream は打ち破られ、久留米大学医学部へ入学しました。しかし、意地でも 6 年越しの夢を叶えるべく、大学時代も猛勉強し英国学生留学を達成し、かけがえのない多くの友人を得て、大学 6 年生まで運動部のレギュラーを務め、最終的に現在の勤務先でもある聖路加国際病院の初期研修医として医師のスタートを切ることが出来ました。

全外科医の勤務環境の改善 に貢献する

「働き方改革」は外科医の世界にも迫ってきています。消化器外科では 1 回の手術が 8 時間以上のものもあり、夜間の緊急手術も多く、患者さんのためを思うがあまり、長きにわたって長時間労働が美德とされてきました。しかし、医学部の女性入学率が増加するなか、性別や体力依存の働き方では外科医の減少に歯止めが効かなくなっています。聖路加国際病院は、2016 年に電通と時を同じくして労働基準監督署の是正勧告を受けました。その際に若手外科医の代表として、当院の勤務改善に取り組み、大量のマネジメントの資料を読破しました。将来的には、日本のあらゆる環境で働く外科医に最適な勤務プラン、病院システム改革を提言できるような、分析と研究ができるように、公衆衛生大学院で学ぶ予定です。

2002 年 4 月 弘学館高等学校入学
2005 年 3 月 弘学館高等学校卒業
2005 年 4 月 久留米大学医学部入学
2011 年 3 月 久留米大学医学部卒業
2011 年 4 月 聖路加国際病院臨床研修医
2013 年 4 月 聖路加国際病院外科専攻医
2016 年 日本外科学会外科専門医取得
2017 年 4 月～ 聖路加国際病院消化器・一般外科

(2019 年 11 月現在)



聖路加国際病院：東京築地に位置し、東京 2020 オリンピックでは国際病院として、選手、スタッフ、世界中のオリンピックを楽しむ皆さんをサポートします。

藤川葵さんのとある一日

- 7:30 出勤
- 8:00 手術・外来・病棟管理
- 12:30 病棟チームで昼食
- 14:00 他診療科からの患者コンサルトへの対応など
- 16:00 病棟チームで回診
- 17:00 カンファレンス
- 18:00 帰宅・場合により研究活動や夜間の緊急手術

後輩へのメッセージ 高校時代に、勉強し過ぎても成果が出せないどころか体調を崩した時に、「努力は必ず報われない」と先生は教えてくれ、父は「負けるが勝ち」と説いてくれました。当時はこのようなアドバイスに理解が及びませんでしたが、今ではまったくその通りだと思えます。医師という職業は患者さんあっての仕事であり、精一杯努力しても思ったような結果が得られないこともあり、いろんな人の命や生活に関わるのに百戦錬磨で勝ち続けることは不可能です。むしろ 100%や完璧を目指すことは、自分の失敗を認められず、医療ミスやカルテ偽造といった、医の倫理に反する行為を引き起こさせます。医師を目指す皆さんが多いと聞きますが、自分の過ちを素直に認め、失敗から多くを学び、心身ともに成長できる人間なのか、自問自答してから、医師を目指してほしいと思います。